

研究の概要

1 研究主題

学び合い、考えを深める子どもの育成
～「分かった」「できた」を実感できる算数科の授業づくりの実践を通して～

2 主題設定の理由

昨年度まで2年間、「学び合い、考えを深める子どもの育成～言葉による見方・考え方を働かせた『読むこと』の指導を通して～」という研究テーマの下、提案授業や各種研修会等を実施し、目指す子どもの姿の具現化を図ってきた。その研究を通して、実体験と結び付けながら読みを進めたり、指示語や接続語に着目したりしたことで正確に文章を読み取る力が付いてきた。

一方、各種検査の結果や日常の学習から、算数科において基礎的・基本的な知識・技能や、筋道立てて考える力が、十分には身に付いていないという課題が見えてきた。また、県学習状況調査の質問紙調査における算数科の回答では、「将来または生活の中で役に立つから好き」と答えた子どもは多いものの、「興味がある」「楽しい」を選んだ子どもは全県を下回っていた。このことから、子どもたちは、算数科の楽しさを味わえずにいるのではないかと考えた。

そこで、今年度は、研究教科を算数科とし、個別最適で協働的な学びを通して子どもが主体的に課題に取り組み、解決していくことができるよう授業改善を図っていくこととする。そうすることで、子どもたちは、「分かった」「できた」を実感し、算数科における「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力」を育むことができると考えるからである。

算数科においては、「事象を物理的に捉え、数学の問題を見出し、問題を自立的、協働的に解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程」といった算数・数学の問題発見・解決の過程が重要とされている。子どもたちが、課題に対して自分事として向かい、課題解決の手段を自らの意思で選び、協働的な学びを積み重ねていく過程において学び方を身に付け、算数科の楽しさや「分かった」「できた」という成就感を味わいながら、資質・能力を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

3 目指す子どもの姿

主体的に学び、仲間と共に学びを積み重ね、考えを深める子ども

4 研究の仮説と具体的施策

○子どもが学び方を身に付けて主体的に課題に向かい、学び合いの中で「分かった」「できた」を実感することで算数科の楽しさや学びの積み重ねの大切さを感じ、考えを深める子どもに育つのではないかと。

- ・個別最適で協働的な学びを取り入れた学習過程の実施
- ・数学的な活動での効果的なICTの活用
- ・効果的な教師のコーディネート

5 学習の土台強度を高めるために

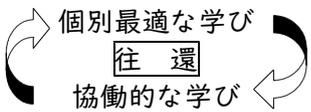
本校の子どもたちは、数概念が十分に身に付いていなかったり、計算技能が未熟であるため正しく答えを求めることができなかつたりするため、問題に取り組んでも達成感を得られず、苦手意識へとつながっていると考えられる。そこで、授業改善と併せて基礎的・基本的な事項の確実な定着のための手立てを取り入れることにより、基礎学力の底上げを図り、算数科への苦手意識の改善を図る。

具体的取り組み

- ・数概念を身に付ける読み上げ計算練習の実施
- ・子どもの実態把握とICTドリルの活用による既習事項の復習
- ・当該学年の学習内容を定着させるための復習プリントの計画的な実施

6 協一小の算数科学習スタイルについて

1 単位時間の学習過程

段階	学習活動	教師の手立て
つかむ スコイ ピン ーパ パ デク ク イト ー	・問題をつかむ。	○問題を図式化して考える。 絵、○、図、数直線、線分図等
	・課題をつくる。	○既習事項との違いに着目して、探究心をもてる課題（考えたい・話し合いたいと思えるもの）を設定する。 （低）…教師が誘導して （中）…教師と子どもが協力して （高）…子ども同士で話し合っ
	・見通しをもつ。	○解決方法の見通し、答えの見通し（見積もり）の支援 ・どんな既習事項が必要かが考えられるように ・どんな解き方をすれば解決できるのかを予想できるように ○一人一人の学習進度・能力・関心等に応じた多様な学びの選択肢の提供 ○ICTを活用した見通しの共有
追究する	・自力解決（シンキングタイム）	○状況把握とヒントコーナーやヒントカード等での支援 ○自分に最適な解決方法の選択
	・個別最適な学びによる課題解決（アクティブタイム） 	○学びをつなげる教師のコーディネート ・同じ考えの児童同士で、異なる考えの児童同士で ・うまくいかなければ、何が足りないか、どこからつまづいたのかなどを考えながら試行錯誤できるように ・他の解き方も考えられるように
	・全体での学び合い（シェアタイム）	○「分からない」を大切にする。 ○他者説明する活動を取り入れる。 ○ICTの活用 ○比較：共通点、相違点 ○検討：よりよい方法は？ は……速くできる か……簡単にできる せ……正確にできる どん……どんな時にも使える
まとめる	・課題についてまとめる。 ・適用問題、評価問題に取り組む。	○子どもの言葉で ○適用問題、評価問題の順は、児童の実態などを考慮して決める。 ○単元評価問題の活用
振り返る	・本時の学習について振り返る。	○振り返りの視点を提示する。 ・どうしたら、課題を解決できたか ・新たに分かったこと ・自分にとって大切だと思ったこと ・友達の考えのよかったところ ・もっとよく考えてみたいこと 等